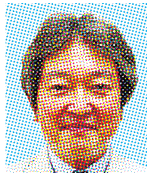


+

ろんだん
佐賀



朝長 修さん

ともながクリニック院長

ともなが・おさむ 1960年生まれ。嬉野市(旧嬉野町)出身。鹿島高一長崎大医学部卒。1987年に東京女子医科大糖尿病センターに入局、専門医として特に糖尿病性腎症、腎不全の治療に従事する。2006年、ともながクリニック糖尿病生活習慣病センター(新宿区)を開設。東京女子医科大糖尿病センター非常勤講師。東京都。

このたび「ろんだん佐賀」の原稿依頼を受けさせて頂きました朝長修です。故郷の新聞に載せて頂くことは私にとって大変うれしく、名誉なことです。お誘いには即答しました。お付き合いをよろしくお願いたします。

私は1960年生まれ、昨年還暦を迎えました。出生地は福岡市ですが、幼少期をほぼ嬉野町(現嬉野市)で過ごし、高校は地元鹿島高校です。代々続く開業医の長男であったため、長崎大学の医学部に進学しました。かなりの苦勞もあつたのですが、1987年に大学を卒業、上京し、東京女子医科大学糖尿病センターに入局しました。

当時、女子医大病院は1日

東京に暮らして

故郷の良さしみるように

の外来受診者数が日本で一番多い大規模病院でした。目の回るような忙しさの中、糖尿病、特に糖尿病性腎症、腎不全を専門に従事しました。2歳下の弟が実家を継いでくれることになったため、図らずも東京に残ることになりました。嬉野では各

し、現在に至ります。東京生活、新宿区での勤務歴が30年を越えました。

嬉野出身の自分がよもや新宿に根を張って仕事することになるとは夢にも思いませんでした。まったく人生はわかないものです。嬉野では各県、埼玉県まで30分で行け

た。指導者にも恵まれて大学には15年在籍し、いろいろな業績を伸ばすことができました。

数年の勤務医を経て、2006年に1日の乗降者数が7万人を超えるJR新宿駅から徒歩数分、大都会のど真ん中で自身のクリニックを開業

家庭、電話機の横にバスの時刻表が貼ってありました。時刻表を見て1時間に2本ほどのバスを目的に停留所に向かいました。

高校時代、鹿島には汽車(美濃駅はディーゼルカーですが)の駅があつて、ずいぶん都

ることに驚きました。生活には不便で迷惑かもしれませんが、本籍は終生嬉野町で変えるつもりはありません。そんなわたしが故郷や都会のこと、医学や我が国の社会について感じたことを書きつづつてみたいと思います。拙文をお許しただけですようお願いいたします。

気質や人情、食べ物や景色が自分の中でとても大切なものとなりました。また都会で生きていくために自分が地方出身者であることをバネにしてきた感もありま

す。

妻や息子たちに願っています。

+